

# 大豆作技術情報 No. 2

令和8年6月19日  
鳥取県産米改良協会

## ☆今の時期の技術対策のポイント

### 1. 排水対策の徹底で初期生育を確保

・額縁明渠や弾丸暗渠の施工、排水路への接続、排水路の清掃など、播種前に行い、降雨の多い時期でも、播種後の安定した出芽、生育につなげましょう。

### 2. 適期播種で収量・品質向上

・播種後、大雨が予想される場合は、天気予報を参考にしながら、無理をして播種せず、少なくとも播種後3日間はまとまった降雨予報のない日に播種しましょう。7月上旬頃を目途に播種を終えれば、収量への影響は小さくなります。

## 1. 天気予報

中国地方（山口県を除く） 1か月予報（06/20～07/19）		
2026年06月18日14時30分 広島地方气象台 発表		
向こう1か月 06/20～07/19	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
1週目 06/20～06/26	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 06/27～07/03	気温	2週目は、平年並の確率50%です。
3～4週目 07/04～07/17	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	中国地方	向こう1か月 06/20～07/19	
		1週目 06/20～06/26	
		2週目 06/27～07/03	
		3～4週目 07/04～07/17	
降水量	中国地方	向こう1か月 06/20～07/19	
日照時間	中国地方	向こう1か月 06/20～07/19	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2. 技術対策

### (1) 排水対策

大豆栽培において、排水対策は極めて重要である。出芽から初期生育期は最も湿害に弱く、この時期に滞水等によって土壌水分が高くなると、出芽・苗立ちが不良となるのみならず、出芽してもその後の生育量が得られず、著しく減収する。

また、湿害の影響で節間伸長が抑制されると、最下着莢位置が低下し、茎が太くなることで成熟期に茎水分が低下しにくく、コンバイン収穫適性が劣るとともに、汚損粒による品質低下につながる。

このため、排水対策によって苗立ちと初期生育を確保することで、収量確保及び品質向上を図るため、以下の技術を徹底する。

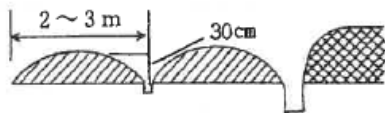
#### (ア) 額縁明渠の施工と、ほ場内排水溝の設置

降雨後の迅速な表面排水を図るため、ほ場周囲に深さ30cm程度の額縁明渠を施工する他、ほ場の均平化を図るとともに、畝立て等によるほ場内排水溝の設置を行う。

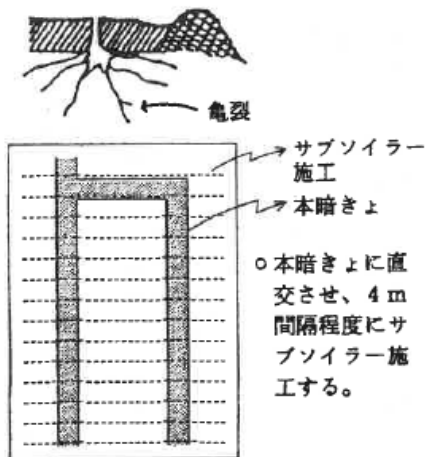
#### (イ) 弾丸暗渠の施工

土壌の透水性が小さいほ場や地下水位が高いほ場では、本暗渠に直交して4m程度の間隔でサブソイラーによる弾丸暗渠を施工する。その際、弾丸暗渠の深さを明渠の底面とあわせておくと、開花期のかん水にも利用できる。(下図参照:令和8年度麦栽培指導指針p2)

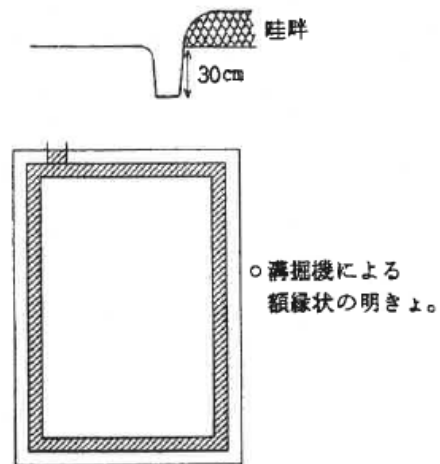
##### 畦立栽培の実施例



##### 弾丸暗きよ又はサブソイラーの施行



##### ほ場周辺の額縁明きよの施行



#### (ウ) 施工した明渠や排水溝の排水路連結

明渠や排水溝が施工してあっても、排水路に連結されていない場合は、ほ場外に排水できないため、明渠や排水溝は排水路へ必ず連結し、排水口へ水が流れ出るようにすること。

## (2) 施肥

### (ア) 土壌 pH の調整

大豆の生育は土壌の pH6.0～6.5 が最適である。石灰質資材による酸度矯正を行う前に、土壌の pH を測定し、施用量を決定するのが望ましい。石灰質資材施用の一応の目安は、苦土石灰で 10a 当たり 100kg である。資材は耕起前に施用し、土壌とよく混和する。前作が麦類、大豆の場合には 50kg 程度の施用量を目安とする。

### (イ) 施肥量

基肥は 10a 当たりの各成分量で、窒素 2kg、リン酸 8kg、加里 8kg を基準とする。また、窒素の施用量が多すぎると、根粒菌の着生が抑えられ、根粒菌による窒素固定と大豆への窒素供給量が減少するので注意する。

※ レンゲ跡等のマメ科緑肥が鋤き込まれたほ場では、基肥の窒素施用を行わない。

## (3) 耕起

大豆栽培ほ場では、大豆茎葉による群落の被陰程度が雑草防除の良否に影響するため、湿害を回避しながら出芽・苗立ちを向上し、大豆の生育量を確保することが重要であり、適切な耕起によって播種時の土壌を生育好適条件に近づける必要がある。

### 【播種時の土壌目標】

大豆は、出芽時に適度な水分と多量の酸素を必要とする作物であるため、耕起や碎土・整地の程度が重要となる。耕起は、ほ場が十分に乾いた状態で実施し、播種前に土塊 2cm 以下が 70～75%あることを目標に碎土・整地する。

※ 深層の土塊は大きく、表層は細かくすると、通気性、透水性が向上するため、碎土・整地にドライブハローを用いると効果的である。

※ 耕起時の土壌水分が高く、土塊が大きいと、播種精度が低下して出芽率が低下する上に、土壌処理除草剤の効果も低下し、雑草が繁茂する可能性が高くなる。

表 10a 当たり必要種子量 単位:kg

百粒重	条間80× 株間18	条間75× 株間18	条間70× 株間18
	14,000本 /10a	15,000本 /10a	16,000本 /10a
26g	3.6	3.9	4.2
28g	3.9	4.1	4.5
30g	4.2	4.4	4.8
32g	4.4	4.7	5.1
34g	4.7	5.0	5.4

注) 条間、株間の単位は「cm」。2粒播き。

## (4) 播種

### (ア) 種子の準備

#### ① 種子量の確保

目標とする播種密度に応じて、右表を参考に種子を準備する。標準で 4～5kg/10a であり、使用する播種機にもよるが、多少余分を持つ必要がある。

#### ② 種子消毒

種子消毒は、クレーザーMAXXを種子塗沫する。

### (イ) 適期播種

#### ① 播種時期の目安

6 月上中旬を目安に播種を開始し、7 月上旬頃を目途に播種を終えるように計画する。

※ 苗立不良による播き直しは、手間と経費の増加につながるため、播種予定日になっても降雨等により土壌水分が高い場合や、大雨予報の場合は、無理せず播種を延期する。

※ 多少播種日が遅れても、土壌条件の回復を待って播種した方が、悪条件での播種に比べて、その後の生育・収量は良好となりやすい。

※ 播種晩限としては設定していないが、過去の試験成績から 8 月以降の播種で顕著に収量が低下することが示されている。

#### ② 晩播の場合の注意点

7 月中旬以降に播種する場合には、株間を短縮して通常の播種量の 1.5 倍程度に密播する。狭畔密播の場合は、最大限の播種量を設定しているため、基準どおりの播種量とする。

### ③ 再播種の場合の注意点

出芽前の大雨による冠水等により、再播種を行う場合は、まずは排水に努めて土壤の乾燥を図る。土壤条件が回復し、農業共済等の現地確認が完了した後に播き直しの判断をする。

※ 最初の播種時に有効成分「リニュロン」を含む除草剤(土壤処理剤)を使用した場合は、再播種時に薬害が発生する懸念があるため、除草剤の使用後2週間以上経過した後、耕うんして再播種する。また、再播種後の土壤処理除草剤はリニュロンを含まない剤を使用する。

## (ウ) 播種作業

### ① 播種条間

播種機の条間設定は、中耕培土作業に用いる機械にあわせて決定し、播種条間の目安は以下のとおりとする。

- ・**管理機や耕うん機**: 使用中耕機の耕うん幅+30cm程度を播種条間の目安とする。
- ・**トラクタ装着型ロータリカルチ**: トラクタの輪距やロータリカルチの装着連数を考慮する。

### ② 株間と播種深度

株間は20cm以下で2粒播きとし、播種深度は3cm程度となるよう調整する。

※ 浅過ぎると、覆土不良や乾燥害による欠株が発生しやすくなる。

※ 深過ぎると、降雨後の晴天によって土壤表面がクラスト化した際に、出芽と子葉展開に支障がある場合がある。

### ③ 播種密度

播種密度は条間70~80cm、株間18cmの2粒播設定では、約14千~16千本/10aとなる。

※ 耕起・砕土・整地を適切に行うことで苗立率の向上に努め、欠株を防止する。

### ④ 密播の効果

大豆は密播により全体の着莢位置が上昇する。株間や畝間の短縮や、1穴株数を増加すると、耐湿性や物理的な出芽応力が向上し(右写真)、増収する試験例もある。

※ 播種密度を確保することが、コンバイン収穫適性の向上や収量確保の点から有効である。



## (5) 除草

### (ア) 播種後土壤処理

#### ① 砕土・整地・播種と除草効果の関係

土壤水分の高い条件で耕うんや砕土・整地を行うと、播種時の土塊が粗くなって、播種精度が低下するとともに、除草剤の効果が低下する。また、悪条件での播種では苗立が不良となり、大豆茎葉による被陰不足が雑草多発生の原因となる。

#### ② 播種後土壤処理の留意点

- ・砕土・整地を丁寧に行い、播種後は直ちに土壤処理除草剤を散布する。
- ・散布時に土壤が極度に乾燥している条件で粒剤を使用すると、成分のガス化が遅れ、土壤表面の処理層が形成されにくいため、乳剤の使用が有効な場合がある。
- ・散布後に降雨が予想される場合は、薬害が発生しやすく、除草効果も低下するため、散布を見合わせる。播種と除草は一連作業として完了できるように、天候を見ながら計画する。
- ・強風時の除草剤処理を避ける。特に噴霧による処理ではドリフトしやすいため、細心の注意が必要である。
- ・除草剤の重複散布が原因で、薬害によって出芽が劣る場合があるので、作業時に注意が必要である。

### (イ) 生育期茎葉処理

・イネ科雑草を対象としてポルトフロアブル(成分名:キザロホップエチル)など、広葉雑草を対象として大豆バサグラン液剤(成分名:ベンタゾン)などを散布する。

※ 大豆バサグラン液剤の効果は草種によって異なり、タデ科やキク科の雑草には効果が高いが、シロザやヒユ科の雑草、一部のイヌホオズキ類に対する効果は低い。

※ 大豆バサグラン液剤の処理により、大豆の葉に一過性の褐変・葉枯れ等の薬害を生じることがある。通常は、新葉の成長に対する影響は小さいが、重複散布による著しい薬害に注意する。

※ いずれの剤も生育の進んだ雑草に対しては効果が劣る。また、大豆の生育ステージや収穫前日数で処理上限が定められているので、使用時期には十分注意する。

※ 帰化アサガオ類、アレチウリ、イヌホオズキなどの難防除雑草の防除については、「診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援マニュアル」(2022年3月改訂2版 農研機構)を参考にする。特に帰化アサガオは、侵入当初の早期対応が重要であるため、ドローン等も利用しながら、生産者と指導者が連携し、組織的なほ場観察を継続いただきたい。なお、マニュアルに記載のアタックショット乳剤は製造中止となり、令和8年から当面の間供給停止となるので注意のこと。

## (6) 中耕・培土

中耕培土は、大豆生育中の雑草発生を抑える有効な手段の一つである。同時に、株元に土を寄せることによって地際部の不定根の発生を増加させ、倒伏防止と生育中後期の養分の吸収に役立つことが知られている。

水田転換畑の大豆は、一般に根が浅い一方で、地上部は伸長することで倒伏しやすくなるため、培土の必要性は大きい。

### (ア) 中耕培土時期

大豆5葉期(播種後30日)頃を目安に中耕を行い、第3～5葉が十分成長した頃を目安に培土を行うことが望ましい。

※ 早期に培土することで大豆の生育が抑制される場合があるので、雑草が発生した場合は、先に中耕を行い、培土を適期に実施する。

※ 雑草防除に成功し、大豆が健全に生育した場合は、中耕培土の一括作業が可能となる。

### (イ) 培土の高さ

・初生葉節以上を目標にして培土する。

・培土高が高すぎると、コンバイン収穫時に刈高調整が難しくなり、泥混入によって汚粒が発生しやすくなるため、中耕による雑草防除効果を重視し、過度の培土は避ける。

## (7) 病害虫防除

### (ア) 種子消毒による出芽時の紫斑病及びタネバエ、アブラムシ、ネキリムシ類等の防除

・病害虫の被害粒を取り除いた健全種子を準備し、クルーザーMAXXを種子塗沫する。塗沫後に種子を拡げて軽く風乾すると、播種機ホッパー内での固着リスクを低減できる。

・タネバエは、ダイアジノン粒剤5を作付前に全面土壌混和するか、作条土壌混和することでも防除が可能である。ネキリムシの防除は、同剤を土壌表面散布する。

・播種期が早い場合、基肥に未熟な堆肥や鶏糞などを施用した場合、あるいは前作の残さなどの有機物が多い場合にタネバエの発生が多くなるので、これらのほ場では必ずタネバエ防除を行う。

### (イ) サチユタカのウイルス病防除対策

サチユタカは褐斑粒が発生しやすいので、褐斑粒の発生を減少させるために以下の総合対策を行う。

① ウイルスの保毒の可能性のある黒大豆、フクユタカ、地大豆との隣接栽培を行わない。(100m程度を目安に離れたほ場に作付する)

② ほ場周辺の除草を徹底する。

③ ウイルス病の被害株を抜き取る(種子伝染株は本葉4～5葉期頃から病徴が現れる)。

④ アブラムシの防除を徹底する。

※ アブラムシの防除は、クルーザーMAXXの種子塗沫処理の防除効果が高く、その残効は、播種後30～50日間である。

以下のURLで農薬の登録情報が確認できるので適正使用の参考にしてください。

<https://pesticide.maff.go.jp>

## 【参考】不耕起無培土密播栽培のポイント

専用播種機を使用して密播する以外は、基本技術の内容についての相違はありません。

### (1) 播種量

種子は 10a 当たり8～10kg 準備する。

### (2) ほ場排水対策

降雨後に表面水が残らないことを目安にして排水対策を徹底する。

### (3) 播種前除草

グリホサート系除草剤処理もしくはハンマーナイフモア等による草刈・粉砕により、カズノコグサ、スズメノテッポウ等の冬雑草を播種前に防除する。

### (4) 施肥

大豆の生育は土壌の pH6.0～6.5 が最適である。土壌の pH を測定し、石灰質資材による施用量を決定するのが望ましい。石灰質資材施用の一応の目安は、苦土石灰で 10 アール当たり 100kg、石灰窒素で 50kg である。

### (5) 種子予措

無病種子を選び、クルーザーMAXXを種子塗沫する。

### (6) 播種

- ・出芽に適した播種深度は 2cm 程度で、あまり深くないように調整する。
- ・条 1m 当たりの粒数が 7～10 粒程度になるように、播種機の繰出量を設定しておく。

### (7) 播種後除草

- ・降雨等で除草剤処理のタイミングを逃すと雑草の発生が多くなるので、播種後すみやかに土壌処理除草剤を散布する。
- ・重複散布や散布ムラがないように丁寧に散布する。

※農作業安全と、熱中症への注意喚起をお願いします。

「あと少し」の無理が命取り！

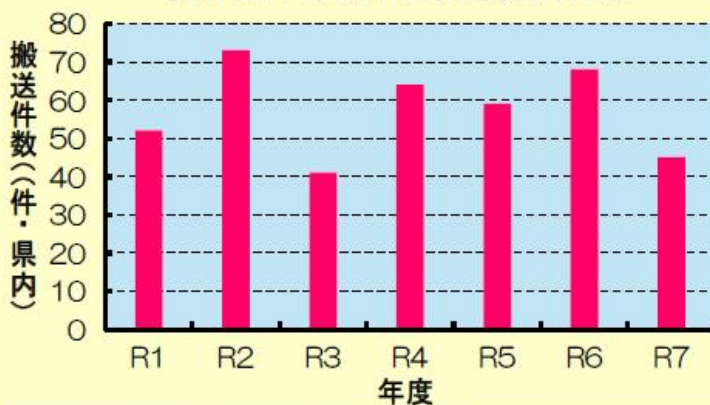
熱中症は



です

- ✓ 天気予報・体調を確認
- ✓ こまめな水分補給と休憩
- ✓ 涼しい服装・対策グッズの活用
- ✓ 単独作業を避ける・単独作業の場合は連絡をとり合う

農作業中の熱中症救急搬送件数



鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局 JA鳥取県中央会JA総合支援部農業くらし対策室  
鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課

電話:0857-21-2633

電話:0857-26-7327

# 農作業中の熱中症の予防管理

## ○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が3日以上予想される場合には熱中症警戒期間が発表され、最高気温35℃以上が3日以上予想される場合には熱中症特別警戒期間が発表されます。
- 天気予報や県の「あんしんトリピーメール」等で情報を入手しましょう。

## ○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、20分ごとにコップ1~2杯の水分と適宜塩分も補給しましょう。

## ○ 涼しい服装で、体温を調節しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- 空冷ファン付き着衣や冷却グッズを有効活用し、作業中の体温を調節しましょう。

## ○ 作業は2人以上で行いましょう

- 急に動けなくなることがあるため、1人での作業は避けましょう。
- 1人で作業する場合は、必ず、家族等に作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。

## ○ 天気予報の暑さ指数(WBGT)を見ましょう

- 今日、明日の作業強度が高い場合は、軽い作業へ変更しましょう。
- 変更が難しい場合は、作業する時間帯を朝夕の時間帯にずらしましょう
- 休憩や給水の回数を増やしましょう。

## 暑さ指数に応じた作業の目安を参考にしましょう

作業強度 / WBGT基準値	農作業の例
作業は原則中止 / 31以上	・冷房の効いた室内での軽作業のみとする
軽作業 (厳重警戒必要) / 30	・楽な座位、立位、軽い手作業 (書く、簿記など) ・手及び腕の作業 (点検、組み立てや軽い材料の区分け) ・腕と足の作業 (普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作)
中程度の作業 (警戒を怠らない) / 28 	・トラクターや重機の操作、草むしり、果物や野菜の収穫 ・軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする
重労働 (積極的に水分補給) / 25 	・シャベルを使って少量の土の移動、刈払い機で草刈り ・重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする
ほぼ安全 / 21	・激しくシャベルを使ったり掘ったりする、鍬で畑を耕す